

十
円

あらすじ

赤星（16）は恋人インリン（40）との海水浴中、ボート事故に巻き込まれて命を落とす。

程なくしてインリンも不慮の事故で死ぬ。

さらには赤星らの友人だったうらら（40）と

江藤（16）も立て続けに事故死する。

連続怪死事件の噂となり、噂を口にしたオリビア（40）と垣内（16）が事故死したところで、物語の幕が閉じる。

登場人物

赤星 (16)

インリン (40)

うらら (40)

江藤 (16)

オリビア (40)

垣内 (16)

○砂浜

パラソルの下に水着姿のうらら（40）が寝そべっている。

江藤（16）、うららの背中にオイルを塗っている。

うらら「…赤星君たちは？」

江藤、海を見て、

江藤「海でいちゃついているよ（と笑う）」

○海

赤星（16）とインリン（40）、浮き輪の中で乳繰り合っている。

赤星、いきなり浮き輪から抜け出すと、沖へ向かって泳ぎ出す。

赤星、少し離れたところまで泳ぐと、

赤星「インリン！　ここまでおいで！」

と無邪気にインリンへ手を振る。

インリン「（笑顔）」

と、赤星の近くにサメの影。

サメ、水面にヒレを出し、ゆっくりと赤

星へと近づいてゆく。

インリン、浮き輪をつけたままヨチヨチと赤星のほうへ向かう。

赤星、また泳ぎ出す。

赤星、泳ぎをやめ、

赤星「（インリンへ）こっちだよー！」

インリン「もー！ ダーリンの意地悪ー！」

サメ、ぐんぐん赤星に迫る。

赤星、気づかず、インリンへ笑顔を向けている。

次の瞬間、赤星、横から猛スピードで突っ込んできたモーターボートに轢かれる。

○机の上

真上からのアングル。

墨汁の入った硯と半紙が置かれている。

画面外から筆を持った手が現れ、筆に墨汁をつけると、モーターボートの軌道のごとく勢いよく横線を一本引く。

半紙の上半分に「ー」と書かれる。

○車内（数日後）

インリン、思いつめた顔で運転している。
ルームミラーにぶら下げられたらキーホルダーに赤星と撮ったプリクラが貼られている。

インリン、プリクラをじっと見つめる。

○インリン宅・リビング（回想）

インリン、入ってくる。

続けて赤星が入ってくる。

赤星、キョロキョロと室内を見渡し、

赤星「（不安げに）大丈夫なの？」

インリン「あの人、今日は残業だから」

インリン、淫靡な表情で髪をかきわける。

二人、見つめ合う。

× × ×

二人、ソファアールで乳繰り合う。

○（戻って）車内

踏み切りの警報がカンカン鳴っている。

インリン、我に返る。

インリン、ブレーキを踏み、踏切の前で車を停める。

踏切の遮断機が下り始める。

インリン、発作的にアクセルを踏み込み、車を発進させる。

インリン、線路上で車を停める。

インリン、ルームミラーのキーホルダーを手に取り、

インリン「（強く握りしめ）…ダーリン」

○踏切内

電車、車に迫ってくる。

電車のけたたましい警笛が轟く。

インリンの車、動く気配がない。

次の瞬間、車、上から降ってきた隕石によって粉々になる。

○机の上

筆、先ほどの横線と交わるように勢いよく縦線を振り下ろす。

半紙の上半分に漢字の「十」ができあがる。

○踏切の前（数日後）

警報機の脇に花束が置かれている。

うらら（40）、花束の前にしゃがみ込み、手を合わせている。

とスマホに着信が入る。

うらら、スマホを取り出す。

○江藤の部屋

江藤、スマホで話している。

江藤「うらら？ どした？ さっきから何度も電話してるんだけど」

○踏切の前

うらら、スマホを耳にあてたまま、ぼんやりと空を見上げている。

雲一つない青空。

うらら「今、踏切の前にいる」

江藤の声「…」

うらら「隕石ってさ、きっと痛みなんかない

よね」

江藤の声「…うらら？」

うらら「私にも落ちてこないかな。隕石」

江藤の声「何いってんだよ！ お前には俺が」

次の瞬間、うらら、横から突っ込んでき

たトラックに轢かれる。

○机の上

筆、横線（円の四画目）を一本勢いよく

引く。

半紙の下半分に「一」の文字。

○江藤の部屋

江藤、スマホへ向かい、

江藤 「うらら？！」

○道

江藤、疾走している。

次の瞬間、江藤、地面から生えてきた巨大なタケノコのような何かに突き上げられ、串刺しになる。

○机の上

筆、円の一画目の縦線を下から突き上げるように書く。

半紙の下半分に「ト」のような文字。

○展望台（数日後）

目の前に海が広がっている。

オリビア（40）と垣内（16）、寄り添って海を眺めている。

垣内 「…つまり、呪いが連鎖して、あの海で一緒に遊んだ四人組がみんな死んだってわけ」

オリビア「…（俯く）」

垣内「…オリビア？」

オリビア「実はさ、その四人組の中の江藤君
って子、私の英語教室の生徒だったんだよ
ね」

垣内「え？」

オリビア「…繋がってるんだよ。みんなどこ
かで」

大久保「…」

オリビア「（話題を切り替えて）ジュース買っ
てくる」

オリビア、歩き出す。

その瞬間、オリビア、展望台に突っ込ん
できたジェット機と衝突する。

オリビア、必死に機体の頭にしがみつく。
オリビア、機体にしがみついたまま、海
上に出るも、その瞬間、隕石が降ってく
る。

オリビア、隕石と衝突し、海へ落下する。

オリビア、海の中へ落ちる。

その瞬間、サメ、下からやってきて、斜め左上にいるオリビアへ食らいつく。ジェット機と隕石とサメの一連の軌道、円の二画目のよう。

○机の上

筆、円の二画目を勢いよく書く。
半紙の下半分に、真ん中の縦線の抜けた
円の文字。

○展望台

垣内、腰を抜かしている。
垣内の後ろから撮影カメラが近づく。
撮影カメラマン、手にトンカチを持って
いる。
垣内、気づかない。
撮影カメラマン、垣内の頭にトンカチを
振り下ろす。

○机の上

筆、円の三画目の短い縦線を書く。
半紙に「十円」の文字ができあがる。

(おわり)